

研究者と話そう



■時間：14:30～15:30(予定)

■常設展示場観覧料が必要です。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

薬草のジュースを作っているヴァヌアツの伝統医療の治療者

実施日・話者・話題・場所

※都合により、予定を変更することがあります。

1月18日(日)

白川 千尋 (先端人類科学研究部准教授)

オセアニアの医療

於:オセアニア展示

1月25日(日)

田村 克己 (副館長・民族社会研究部)

話題:女性の話を聞くーフィールドワーク入門

於:東南アジア展示

編集後記

本号は今年の干支にちなんで「ウシ」がテーマである。民博では今年も年末年始行事としてウシにちなんだ企画をすとかで、民博職員の個人情報防備体制?をくぐって丑年生まれが探索され、わたしも見つかってしまった。ところで、十二支にはウシをはじめ、ウマやヒツジなど家畜が多く登場する。中国に起源があり、若干の動物の交替があるが、隣接する朝鮮やモンゴル、ベトナムなどにも存在する。いっぽう、西洋では十二支に似たものとして、占星術のホロスコープに十二宮があり、家畜の牡羊、牡牛が登場する。ともに性別が限定され、東アジアの十二支のヒツジ、ウシのように家畜種の一般名称ではない。そういえば、欧米や中近東では、日常生活でも家畜の性別や年齢を限定した一次語名称が多く使われ、一般名称に慣れたものにとって、オス～、メス～、仔～などと頭のなかで訳しわけるのが面倒くさい。家畜の繁殖と頭数にこのほか気を配ってきた牧畜文化に起源があるからだろう。ちなみに、遊牧社会として名高いモンゴルでは十二支はおろか、西洋のホロスコープにある牡羊、牡牛までヒツジ、ウシと一般名称を用いる。ジェンダールレスでは一歩進んでいるようだ。(庄司博史)



次号予告/2月号特集
刺繍がつなく世界

2009年1月号

第33巻第1号通巻第376号
2009年1月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。

●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

